

世界の一流研究者によるシンポジウム開催 Tecan Symposium 2010



国際的な講演者の顔触れ

Tecan の第 3 回シンポジウムが秋の風景の美しいオーストリアのザルツブルグで行われ、欧州や米国、アジア、オーストラリアから業界をリードする研究者が一堂に会した。和やかで刺激的な雰囲気の中、今年のテーマ「ゲノム技術の応用」について活発な議論が交わされた。

盛況を収めた 2 日間のシンポジウムでは、「応用ゲノム」をさまざまな視点から取り上げるプログラムを中心に、幅広い分野の専門家が独自の視点で既存の技術のメリットと限界について語った。

最初のセッションは、現在開発中の画期的な新技術の紹介で始まった。このセッションでは、最新の革新技術が研究環境に何をもたらし、ゲノミクスの応用現場全体にどのような影響を与えるかを、Tecan の Chief Technology Officer of Life Sciences の Marc Feiglin と、米国の Strategic Partnerships Institute for Systems Biology の David Galas 博士が解説した。次に、テーマをゲノミクスの応用に移し、この比較的新しい分野がヒトの健康、法

医学現場における個人識別、食物・環境などに与える影響について議論が交わされた。プログラムのテーマは、消費財や OTC（一般用）医薬品へのゲノミクス応用から犯罪捜査と行方不明者の捜索における最新技術や傾向情報にまで及び、さらにゲノミクスによる水質や食品の汚染監視の効率化についても詳しく語られた。

このプログラムで重視されたのは、各セッションの終了時にその分野の専門家と参加者が技術関連の課題について自由に討議できるよう、質疑応答時間の他に十分な時間を設けることだった。この討議は会場だけに止まらず至る所で行われ、著名な研究者が集うこの貴重な機会を講演者も出席者も有効に活用した。このシンポジウムを主催する Marc Feiglin は語る。「この



ザルツブルグのゲヴァントハウスでの夕食会

シンポジウムは、Tecan にとって学界や企業の主要人物や研究リーダーらと情報を交換し、この最先端科学技術分野における最新のトレンドや技術の実用化に関する問題点を収集できる貴重な機会です。またゲストにとっては、業界内や専門分野内だけでなく、他分野からの意見を聞くまたとない機会ともなります。これをきっかけに多様な研究分野の共通点を見出し、学際的なアイデアを育成し、自然科学への理解を深めることもできます。」

このシンポジウムの詳細は、Tecan ウェブサイト www.tecan.com/symposium2010 をご覧ください。

■この記事は2011年1月発行 Tecan Journal 1/2011 に掲載されているユーザーストーリーを抜粋、翻訳したものです。ご質問、ご要望は下記までお願いします。

テカンジャパン株式会社

TEL. 044-556-7311/FAX. 044-556-7312
E-mail: infojapan@tecan.com



革命的な人類遺伝学の複雑性の解明について興味深い知見を述べる David Galas 博士



(左から) Rinaldis 博士、Galas 博士、Shapiro 博士、Hattori 博士を囲む座談会



(左から) シンポジウムを祝して乾杯する Barbara Zehentner 博士、Renate Wohlgenuth 氏、Cornelia Kegele 氏



Tecan の創立 30 周年おめでとう!



プレゼンテーションに聞き入る参加者ら

Tecan Symposium の講演者

10月7日(木曜日)



Dr David Galas

Senior Vice President of Strategic Partnerships
Institute for Systems Biology, 米国

「人類遺伝学の革命 - 複雑性の解明」



Dr Frederic Zenhausern

Director Center for Applied NanoBioscience
University of Arizona, 米国

「第6のバイタルサイン:
ゲノム プロファイリングの論理的根拠」



Dr Emanuele de Rinaldis

Senior Research Fellow
King's College London, 英国

「Triple Negative乳がんの分子的精査:
~オミクス統合アプローチ」



Dr Jim Fleming

Vice President and Director
Labcorp, 米国

「分子検査と医薬品の移り変わり」



Dr Ehud Shapiro

Professor of Computer Science and Biology
Weizmann Institute of Science, イスラエル

「健康と疾患に関するヒト細胞の系統樹の解明」



Dr Josef Thalhamer

Head of Gene Vaccines
Salzburg University, オーストリア

「アレルギー性疾患に対する遺伝子ワクチン」



服部正平博士

東京大学教授

「ヒトの腸内マイクロバイオームのメタゲノミクス」



Dr Jay Tiesman

Principal Scientist, Global Biotechnology Division,
Proctor and Gamble, 米国

「コンシューマー・ゲノミクスに消費者の視点を」



Dr Kari Stefansson

Executive Chairman and President of Research
deCODE, アイスランド

「集団遺伝学とその健康への影響」

10月8日(金曜日)



Dr Ron Fourney

Director
National Services and Research Branch, RCMP, カナダ

「次世代の法医学分析法と個人識別の展望」



Dr Pingfan Rao

Professor
Fuzhou University, 中国

「バイオ技術の食品加工への応用」



Dr Tom Callaghan

Special Assistant to EAD
FBI Laboratory, 米国

「採取現場における迅速な個人識別DNA解析」



Dr Bernard Berger

Senior Scientist
Nestlé Research Centre, スイス

「プロバイオティクスのための細菌ゲノム学」



Dr Angela van Daal

Associate Professor
Bond University, オーストラリア

「法医学関連のSNPマーカー」



Dr Alain Houde

Research Scientist
Agriculture and Agri-Food Canada, カナダ

「食物経路ウイルスの検出ツールの開発と実用化」



Dr Christian Lauber

Senior Scientist
University of Colorado, 米国

「皮膚の細菌叢を利用した法医学鑑定」



Dr Syed A. Hashsham

Professor
Michigan State University, 米国

「水中や食品中の微生物を検出するDNAマイクロチップ」